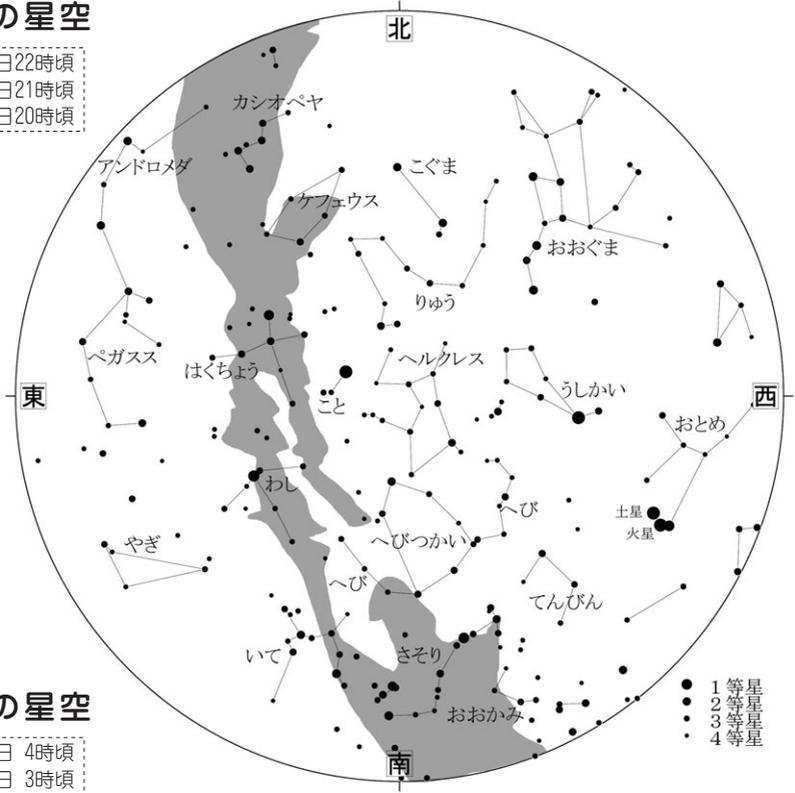




★星空ガイド 7月16日～8月15日

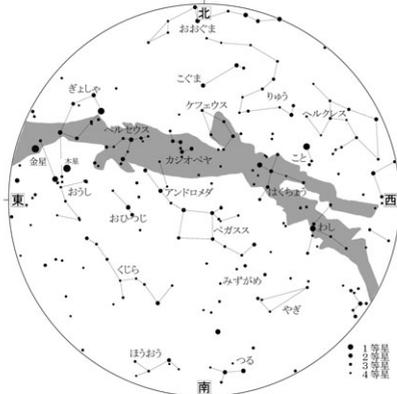
よいの星空

7月16日 22時頃
8月 1日 21時頃
15日 20時頃



あけの星空

7月16日 4時頃
8月 1日 3時頃
15日 2時頃



[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
7	16	月	4:56	19:11	2:12	16:45	26.5
	21	土	5:00	19:08	6:54	20:07	1.9
	26	木	5:03	19:05	12:12	23:06	6.9
8	1	水	5:07	19:00	18:07	3:53	12.9
	6	月	5:11	18:55	21:01	9:08	17.9
	11	土	5:15	18:50	—	13:46	22.9
	15	水	5:18	18:46	2:43	16:52	26.9

※惑星は2012年8月1日の位置です。

<8月14日は金星食>

5月21日の金環日食、6月4日の部分月食、6月6日の金星の太陽面通過と、今年は食現象が目白押しですが、8月14日の未明には金星が月に隠されるという「金星食」が起こります。国内で見える金星食は、1989年12月2日以来、実に23年ぶりという珍しい現象です。

14日の月の出は午前1時47分で、月齢が25.5という細い月が昇り、そのすぐそばに金星が見えています。そして午前2時43分になると金星が月に隠されてしまい、しばらく見えなくなります。その後、午前3時28分になると、月の暗い側から金星が再び姿を現します(時刻はすべて大阪の値です)。

金星はマイナス4.3等級と非常に明るいのですが、視直径が小さいため、あっという間に月に隠されてしまいます。ですので、予報時刻の前後は集中してしっかりと観察することをお勧めします。

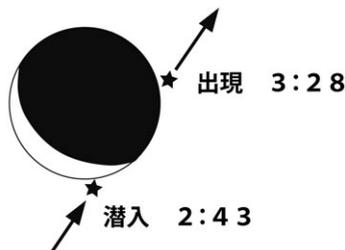


図:金星食の様子

<ペルセウス座流星群が見ごろ>

8月12日から13日にかけて、ペルセウス座流星群が極大を迎えます。今年は月が細いため、月明かりがあまり邪魔にならず、好条件での観測が期待できます。空が暗い場所であれば、夜半前から明け方にかけて、多い時には1時間当たり30から40個程度の流れ星を見ることができるともかもしれません。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
7	19	木	●新月(13時)
	22	日	大暑(太陽黄経120度)
	26	木	●上弦(18時)
	28	土	月が最近(367,315km) 水星が内合 木星とアルデバランがならぶ
	29	日	みずがめ座δ流星群極大

月	日	曜	主な天文現象など
8	2	木	○満月(12時)
	7	火	立秋(太陽黄経135度)
	10	金	●下弦(4時) 月が最遠(404,123km)
	12	日	ペルセウス座流星群極大 月と木星がならぶ
	14	火	金星食(02:43~03:28)
	15	水	金星が西方最大離角

嘉数 次人(科学館学芸員)